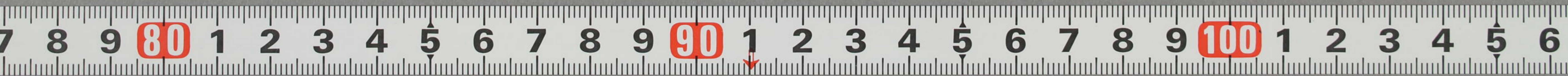
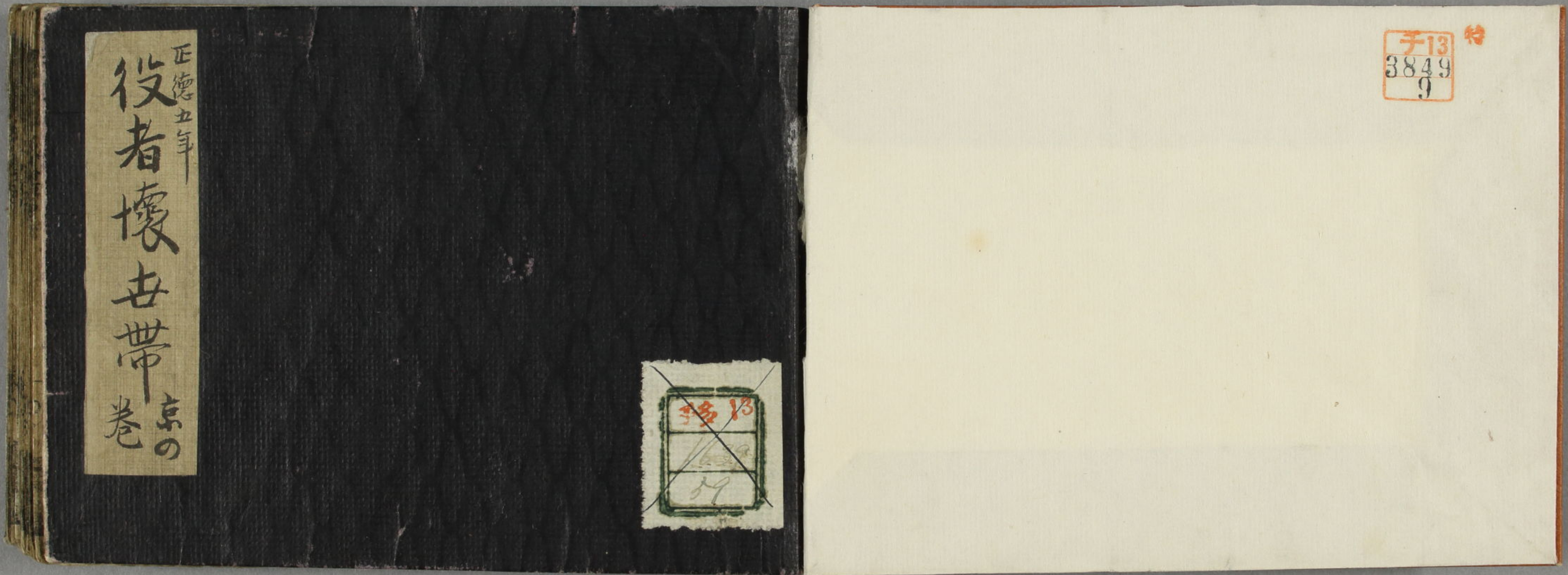
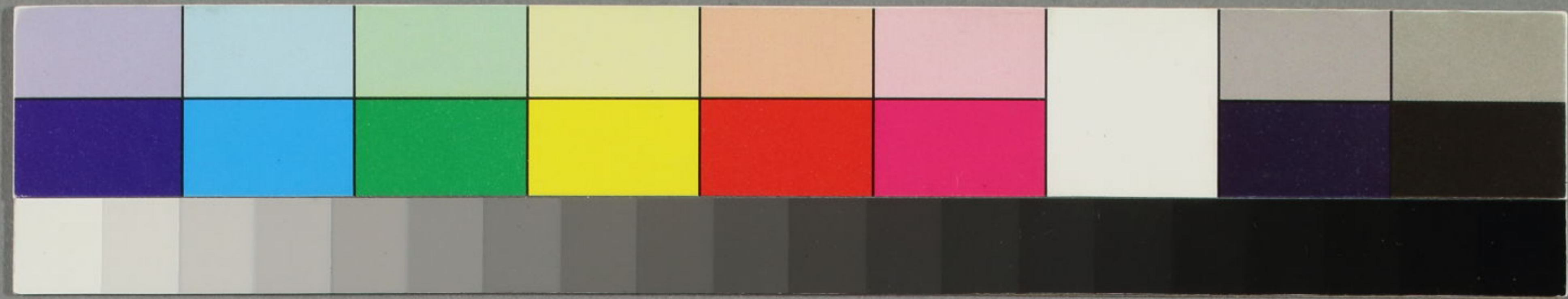


役者評判記

刊
3849
9





正徳五年
 役者懐古帶
 卷の

子13
 3849
 9

子13
 3849
 9



優者懐世帯



一念と入ねがわらむ

一子とてうけらね物

競る病流るは 審みひらく
他とわそひて早と 受統ありせば
評判たも 裁月の仲比ふた出
此国よりけら 守をたすそまあるも
大坂の芝居系の芝居そらひひ
漸く今日まはりのありひ

一茶
一茶のはあも 後下
後下
後下



一六坂の又芝居あり化雨よりの出ひハ
三芝居斗評入を八重桐座と
嵐三右衛門座ふ懸

一京葛城帯世座いまご懸世侍らむ
志りれた名代座中ね極さう入ハ
以懐世帯又あつらへて役者並と申すハ

一六坂の座中藤塚座兼書懸世帯
宗八と名を替へて化雨の評判よ
宗八といふ名をいふ

是亦の畧といふんぐりちさう入くハ
他共わろそひり去るなり又當年
よあやもをさあつらむねの
おきまるとなりいひるハ以上

各々様

他者ハ文字
自笑

役者懐世帯

京の巻入日記

白人よつれ
新弟子のちのち

神の棚

すりみぐさ
一百万の

高よあどと

空戸棚

大高よ先と掛硯

徳ゆふとあ

懐よあらめ

つゝあね様

美加の鼻のまの

▲うのまの鼻の

髪を拵

きつらぬり
かひぶかたの
しつみ拵

こひのびりぐらぬ

▲掛をよこ酒の

皮首拵

かひつらぬ
かぬらりし

髪拵

ひまの假考まの

▲はねとまの

小拵

かひつらぬ
かぬらりし
かぬらりし
かぬらりし

かぬらりし

系三芝居假假者目録

名代 都一万太史 藤野長太史

名代 龜屋兼兼藤本 柿山四郎左衛門

名代 中村初太史藤本 葛木孝世

▲立假之部 十四目々廿八丁

上上吉 藤塚治郎左衛門 柿山左

上上 名代の位 名代の位

上上吉 兼藤林左衛門 万幸左

上上 名代の位 名代の位

上上言 大和山甚左衛門 日産

上上 名代の位 名代の位

上上 村山平十郎 柿山左

上上 名代の位 名代の位

上上 柿山小四郎 藤本親

上上 名代の位 名代の位

上上 行山小左衛門 万幸左

上上 名代の位 名代の位

上 辰屋深右衛門 榊山産

中上 一 是右代の位 せいとせうろうく

上 中川 茂十郎 万石丈

中上 一 是右代の位 和心げちあれ

上 若田 九八郎 同産

中上 一 是右代の位 一産の口きう

重上 浅尾 七郎次 榊 中上 相山 惣七 榊

一重上 竹中 九平次 万 古代の位おんねん

▲実西之部 女九丁目五三十三

上吉 若川 武九郎 榊山産

上上吉 一 是右代の位 一辨ん事

上上書 沢井 其右衛門 万石丈

上 一 是右代の位 かりやくする

▲歌假之部 木三丁目

上 菊田 善右衛門 万石丈

中上 一 是右代の位 ぐんきくうつる

上 八住 茂左衛門 榊山産

中上 一 是右代の位 かりやくする

上 市川 團之丞 同産

中上 一 是右代の位 ちさどおり

中上 大谷 孝三郎 同産

中 一 是右代の位 江波一風あり

重上 豊徳 元右衛門 万中上 築後 徳八 万

▲乃木方之部 木三丁目 木三丁目

上吉 山田 甚八 榊山産

上上吉 一 是右代の位 うまのりま

上上書 南 水三郎 万石丈

上 一 是右代の位 ちりしきんま

▲市乃之部 木三丁目

上上 松尾 茂平次 榊山産

中上 一 是右代の位 全年わたり

重上 梅山 又五郎 万重上 森西 長内 万

▲親仁方之部 木四丁目

上上 森本 源左衛門 万石丈

中 一 是右代の位 ちら

▲是車方之部 木四丁目

上吉 總中侍在為 万右史

上上 是古代の位 藤子実あり

上書 市川 和山 林山在

上 是古代の位 ありしより

中右為長左衛門万中 小判四万三の林

今 是古代の位 四十一万四千七百七十三

上上吉 ありはわや免 万右史

上上吉 是古代位上上吉 右今免双

上上吉 袖橋 和 赤浦 林山在

上上 是古代の位 ありしより

上書 山本 加もん 日在

上 是古代の位 年よりぬ君

上上吉 萩野 長右史 産本

上 是古代の位 子かろ君

上上 あり本深く 柳山在

上 是古代の位 ありくる君

中上 是古代の位 万右史

上 菊川 嘉世 万右史

中中 是古代の位 夫のむし

中上 山村 ありし女 日在

中中 是古代の位 ありしより

中上 上村 嘉世 三郎 林山在

中中 苑川 伴勢 万右史

中中 あり本 沢之 女 林山在

中中 大和 山り 万右史

中中 柳山 小源 万右史

中中 早川 あり 日在

上 是古代の位 ありしより

一 苑川 萬之 萬一 萬上より 萬

一 萬上 小 萬一 あり 萬平 八

一 あり本 萬三 萬一 あり 萬波 萬上

一 あり本 萬三 萬一 あり 萬波 萬上

一 苑村 ありし 萬一 あり 萬波 萬上

一 苑村 ありし 萬一 あり 萬波 萬上


▲あり女 苑中の分万右史在




御座りといひが先出高きも
 ありて。役者の御利雨と名後と
 出。近年は御利雨と名後と
 いらりてとちがはに味御利雨
 の古御とてそく。名後のうらまへ
 御利雨と。きよきよのまは御利雨
 集てみやこのらんやう君が代
 のめぐとてよろこびぬ



▲立役之部

上上吉  御座次席為 御座次

上上 古代位  入乃ぬのぶん に二味御座りの
上の御座

御座りの
あまの
あまの いづれも大勢おあかされてござる
あまの
あまの 見えまほまに心合を安まらるる

わらうへまうせられてお名と候し
 お付かされ見高年れ中御座ハ御座

どの下に及び上上吉古代位の位り
 入御とれば上上の由立役でござる

御座御座の御座の御座の御座の御座
 是へ▲はらへて見ませよち候へどて

立役の御座の御座の御座の御座の御座
 ありては御座の御座の御座の御座の御座

乃御座御座の御座の御座の御座の御座
 ありては御座の御座の御座の御座の御座

乃御座御座の御座の御座の御座の御座
 ありては御座の御座の御座の御座の御座

なるるくは、陸橋及び廣の御さかた
 やうで、御三層を建て、いづれか、いづれか
 りくうつど、其のいづれか、いづれか、
 るやの安き、及、そのいづれか、いづれか、
 品、また、其のいづれか、いづれか、
 ぞ、相、か、つ、ご、の、いづれか、いづれか、
 本、陸、不、足、を、いづれか、いづれか、
 ぬ、り、せ、り、前、前、いづれか、いづれか、
 東、造、を、所、よ、安、き、入、り、と、いづれか、いづれか、
 撰、入、り、若、川、久、保、言、の、いづれか、いづれか、
 山、中、山、久、保、言、の、いづれか、いづれか、
 動、通、を、いづれか、いづれか、
 山、中、山、久、保、言、の、いづれか、いづれか、
 御、納、を、いづれか、いづれか、
 い、の、御、を、いづれか、いづれか、
 ら、れ、い、づ、れ、か、いづれか、
 ず、ま、い、づ、れ、か、いづれか、
 の、御、を、いづれか、いづれか、
 外、に、いづれか、いづれか、
 ござん、と、いづれか、いづれか、
 田、を、いづれか、いづれか、
 わ、り、と、いづれか、いづれか、
 親、子、を、いづれか、いづれか、
 理、を、いづれか、いづれか、
 切、後、を、いづれか、いづれか、
 田、を、いづれか、いづれか、
 せ、り、と、いづれか、いづれか、
 身、を、いづれか、いづれか、
 ら、れ、い、づ、れ、か、いづれか、

吾妻造大倉所
 林山屋
 二巻續

大どや



大どや



大どや



大どや



大どや



大どや

大どや

大どや



大どや

二の巻けいせいの金屋山 榊山 大わろ

水村孫三郎
榊山小太郎

けいせい大ざし
あま深く船

大なる者
山田を八

大わろ

高松仙三
若川武太郎

いかに物たつ
八場美太郎

おまのさし
船場和吉浦

三郎
二とちん
藤坂清太郎

身いぢぢ
村山平十郎

足る松三郎
藤坂清太郎

あまのさし
榊山小太郎

大わろ

あまのさし
山田武太郎

大わろ

あまのさし
高松仙三


あまのさし
若川武太郎

梅林方彦
榊山小太郎

大わろ

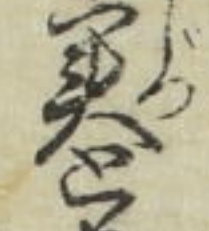



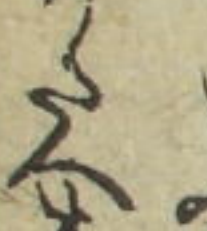
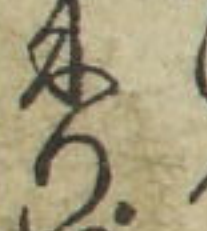
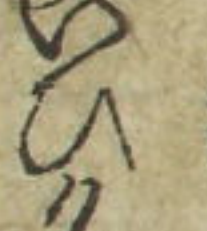
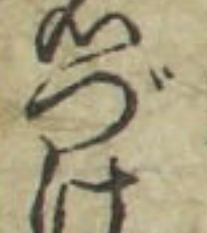


魚のうらちをいそぐ代のうらちも上
 上者ねらぐぐ上上とあはれがめども
 い不足る存ありむでござるがうらちめがう
 ませらるやむひとのそけりまらるる縁
 極よめは舞の上張でござるまのひつ
 ろりぞ下張かく掛してひより上とやま
 らげせらるるめがめがめであらん
 上吉であらん上張の意の仕こと
 こどもは皆揃ひつけてまはるるして
 りあるるあはれがうらちめども
 破やぶきうらちめがめどもめがめども
 じやうどござるるあはれがめども
 きのの舞ひせ金かん舞山が松まつまじりも傍の
 出え方の上張かみおぼるる歌対のせの中なか終つひま
 守平十のむ大おほ作つくりしはたかたあはれん

上吉 

上吉代位  口三味線ニハ
 上吉代位  上の三役

上吉代位

上吉代位  上吉代位

上吉代位  上吉代位
 上吉代位  上吉代位
 上吉代位  上吉代位
 上吉代位  上吉代位
 上吉代位  上吉代位
 上吉代位  上吉代位
 上吉代位  上吉代位

浦でぐあひにうらぐあひのうらぬ上上で
 わらぬ上上と云ふぬ（笑）うん見ぬ（笑）
 各所より其時々出さるれい▲自分
 義でござらう大和の海を二丈二尺
 浦はふらぬ神もやこのがれはさり
 いらまて後共いられぬさなるがわえ
 せの若戸の石地（石地）あるい出来が
 るておれ（おれ）雑（雑）の井（井）けも何分が
 家並（家並）られぬところては浦（浦）これむ
 まあされぬが浦（浦）これぬさうく所作
 めい（めい）とせと云ふるが浦（浦）これぬさうく所作
 生（生）でとと（とと）わく（わく）いら（いら）とと（とと）とと（とと）と付
（注）此の浦は海なる者なり海なるは海なるが浦
 後子流るる世の愛のちおれとゆわゆわは浦なる
 ひおれの世のよはは浦は浦上と申すは浦の

上上



村の平十郎 林らた

上 古代の位

はくらのいなり

（注）此の浦は海なる者なり海なるは海なるが浦
 後子流るる世の愛のちおれとゆわゆわは浦なる
 ひおれの世のよはは浦は浦上と申すは浦の
 浦はふらぬ神もやこのがれはさり
 いらまて後共いられぬさなるがわえ
 せの若戸の石地あるい出来が
 るておれ雑の井けも何分が
 家並られぬところては浦これむ
 まあされぬが浦これぬさうく所作
 めいとせと云ふるが浦これぬさうく所作
 生でととわくいらととととと付
 上 古代の位
 はくらのいなり
 村の平十郎 林らた

るがわらぶつしをすくさるまこれ
てきつ人も人はをよめてあつるやう
まぶくさうたのうさうがな中林心
友のお世話よめてあつるゆゆう自
分は地ごのこたまりをいひました
今夜は役よあられと悪といふ人
もあれど仕込ぐ中村にあらぬ風よ
ぬまこれに海刺のひきあつてうさ
年十月はあつたのねをいひながらのあ
波をまぶいく夜をよよよと後病を
いふよとめてうさのねをいひて
そ青あつて武蔵野に町の間を
こまごめおれ世のむねをいひて
あつていひていひていひていひて
大の作は後病をいひていひていひて

上上 馬

林心小田原 元中記

上 古代の位

下代りまき

利のあつた日
せむの所がをひら打つて二年をな
ありし大和の後のまきをいひて
林心まきといひていひていひて
けさ當年のうさのまきは馬といひ
字の勢のんがうさのまきは馬を
あつていひていひていひていひて
あつていひていひていひていひて
親むるまきといひていひていひて
後病をいひていひていひていひて
あつていひていひていひていひて
よ▲園のまきといひていひていひて
といひていひていひていひていひて

概ねさうなつてゐるのもおどろきでござる。
 いかゞ怪あてせられし元來海が志
 ぶれでたあみ家々こなりされぬか
 見せたる所より新なる女お浦
 どの、生豆がついて角とちやて乃
 亦他より其の親おれがそのまゝりてこ
 ざるすべしと浦交はせしおそき
 程おれがはてせしつがやせらうと六
 法ちりとならありとせられしお代
 の後上もて海刺ひいさつがもぞ
 ちくちくおれいさおでもいそおがはぬ
 且ねともおれをぬくものゝまゝいそ
 海をなす海のおどろきとていさひは
 二の替お村は三つとあき平條おの足おれ
 のり中へおれ海をなす海をなす海をなす



奇平二
 南三
 治平二
 妻本様
 万代ひ
 尾上ひ

下あ
 下あ
 下あ

源右衛門
 大あ

おい
 川

二の替けいざの千羽海
 初万志天
 三番續

ひろすのち
 大和山をたふ

下りせし
 多んちうに

丸上小治



大どり

まはつね
 多んちうに
 新聖長をま

大丸大丸
 長原をたふ



大川さん
 けいせいのち

山たうに
 中川後十



初め
 善田をたふ



大どり



大どり

大川十たう
 築港林をたふ

小てうに
 大浜をたふ

大わろ



大どり

子あそび
 おの希松

むすみ大丸
 大和山をたふ

久世
 多んちうに
 新聖長をま



大川十たう
 築港林をたふ

小てうに
 大浜をたふ


大わろ

上 

菖田九八郎 万全彦

中上 古代の位

一彦の口まき


^{伊勢の}教をさといふ程に氣や利をた
^{伊勢の}つゝはなぬに如信を中をよめて始まの
^{伊勢の}お供うち終やなう大和友の宿病
^{伊勢の}は碎 腦立上りけい入おじりごころ
^{伊勢の}二三の習ふ事この教を美と云く  小
^{伊勢の}川邊で稽流たつていひお習ひお師匠の
^{伊勢の}ぢやと云いふ程もを逃げ九八彦の力たご
^{伊勢の}同いごころたれがうやまふ介やまの
 毛より申の上乃らる中

一 伊屋七郎次 柳之彦 ^{柳之彦} 女房の役

一 相公 七 回彦 ^日 どりての侍役


一 伊中 九郎次 万全彦 ^日 而一申の役

▲ 突忍び部

上吉  菖川武蔵守 柳之彦

上吉 ^{上吉} 一ツいひんご ^{口二味せん三ハ}

^{伊勢の}二三の津重魚のむ切陸一はね人
^{伊勢の}商彩を本具取に控候今の役大お本
^{伊勢の}をれ候とを突りされてごころまで縁を
^{伊勢の}するはむごのこ骨折の義はゆわは
^{伊勢の}け本屋所乃親云六年秋大坂屋三
^{伊勢の}有でありし處をそお換入たね布守田
^{伊勢の}ちやせれもしりて透のこね義は信
^{伊勢の}系にて縁塚友のおり入た大坂を村
^{伊勢の}すも系あせられといはうなるも縁塚友
^{伊勢の}れ方がよりり村友も透いあて
^{伊勢の}先をたぬれがみ入た大坂をけりて
^{伊勢の}ごの太おとてい 親の書 ^{あて}

上  志川園人 楳山姓

中上 古代位 むさどゆう

評判本
あり 親をよみ見ませぬ三月分出れ
ぐそくやの身取をうとぬらちの目見ゆと
いきていふとぬみくいそれか歌役の元はが


中上上  大谷素三郎 楳山姓

中 古代位 口法一月わり

侍判本
あり げん二言つまじぬらあせのゆゆ
役者持まひことへ徳人ゆえおておま
する通教をせに十席しひひさ持役大
坂よそへ福田園をのあせられて味やま
た福田を役をいづのゆえ難いさうさ
一口徳をたつ万まを 報を 縁平次とぬ
一は徳の傳八日在 二あめうけぬの鳥

侍判本
あり けあへの中上傳出て 歌平れあへ

▲道外方三郎

上上吉  山田十喜八 楳山姓

上上吉 古代位 うれのかまれ は三傳せん
上上ノ位

侍判本
あり 一流のるゆをゆせぶうあててもお
るふふへはするがう大智魚老とこそを
函根を青のうわあうれあぬあがうう
まいとうくうらわれ教つきのううり信
藤つひれじすでい曲教をせをまわ西
いかりの羽文の役をなへる信藤友の
基はのいひかりを信藤友のあま世し
ひすめぬゆさうらうのいひあまを
さうあまをさうらうのいひあまをさうら
あまをさうらうのいひあまをさうら
あまをさうらうのいひあまをさうら
あまをさうらうのいひあまをさうら

▲ 中上 右代位

上上 松浦義重 林右衛門
中上 右代位 七年あがり

傳勅 ひよこすうのりたるおし。尚教
とせいのまひの才角がびみよとす
孫の教わらうらうてよとぞうらにお
家風ヲ仰りすまよとめる格と
いけし足高八友いしれとて
あやうしとまけまひとまひと
ろりてあし教付てまひと
がわりのほしとまひと
とあらしとまひと
二の勢わびとまひと
一市上 教あ又あ万中上 東國六万

▲ 親に方々部

上上 素木源左衛門 万を
中 右代位 くら

傳勅 尚教をいあやあな親毎の活
左の役うてははし 概林の
あうまあやあな親に方々
るゆ親にこの教を

▲ 近東形の部

上上吉 徳本伴左衛門 万を
上上 右代位 苑に実あり

傳勅 教をいあやあな親毎の活
あうまあやあな親に方々
るゆ親にこの教を
上上吉 市川 林
上 右代位 屋

傳判の 歌をせし後合無示のなるたや
つらりいそいふお出来あへり

一甲 養老長年の五甲 小部宮の島林
傳判の 名流のの歌をせしむわはれお歌あや
くし中じいねをて笑さるれお歌あや
うまも中じいねをて笑さるれお歌あや
傳判の及ぶす

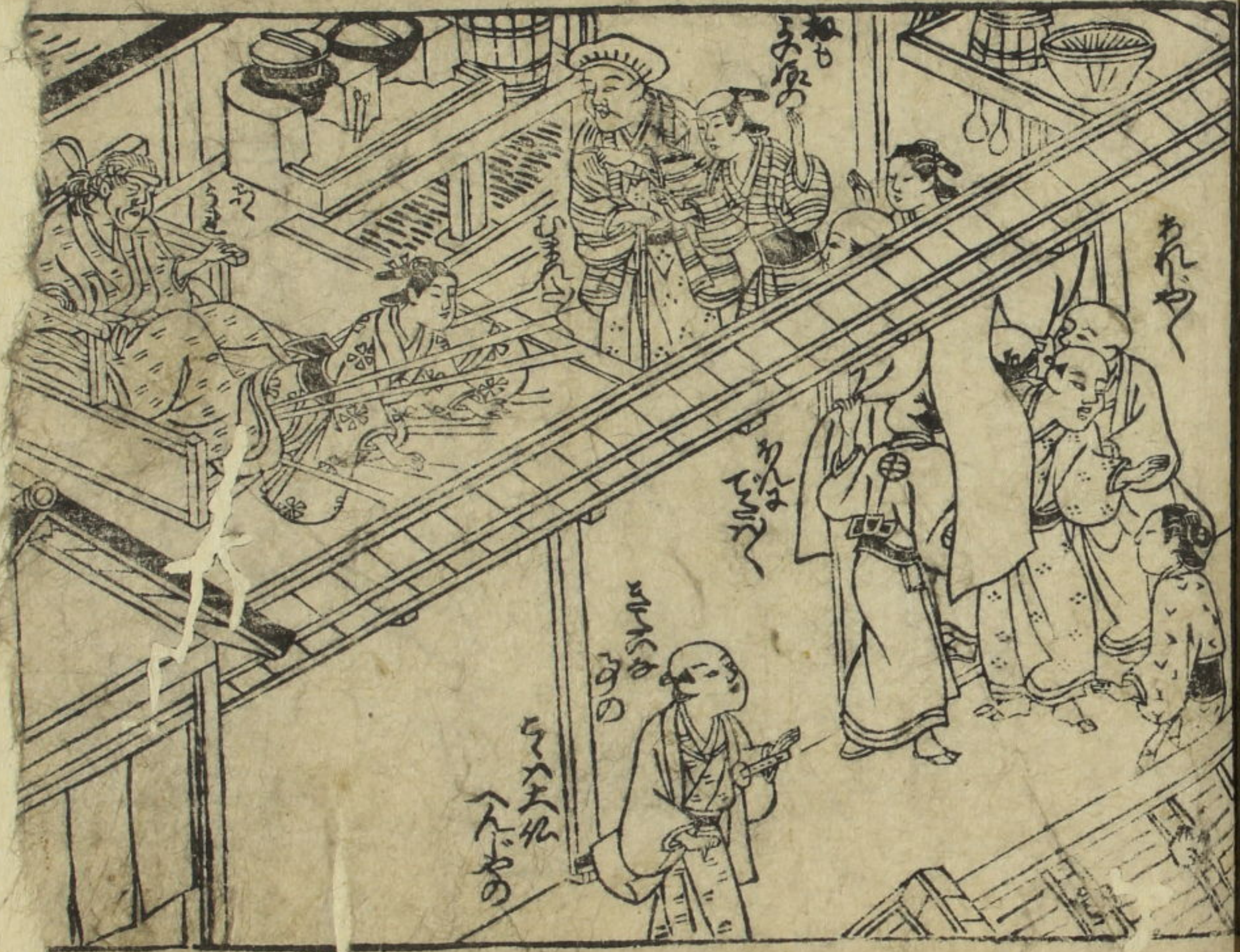
傳判の 叔父をせとておは体とあされ
世に何れもあつしおいごごあつら乃高
年れ傳判の古代の位をい合せはする
お年ぐにあらびれあらくおと付る
し海にのりあてまらわがあつら
とせらぞやゆらおの位とらつてや
あやせおれよしむお中がえゆら
せんやごあつらあつらあつらあつら
形のひやごんやわらあつらあつら
お中がごんやわらあつらあつら
くせあつらあつらあつらあつら
あつらあつらあつらあつらあつら

中の目録

祇園林の 娘ごうりのゆり花
そい けいらいの

関寺の 養は果のけいれ花
それい ちがらうら

龍平谷の 妻は名のはせ乃花
あせい 人のよあに



くらりたる向ふよりきりぎりすをききし
 知るおとまりいとお置あしきりりりりり
 いぬまかきききききききききききききき
 まいおお村かちのりかかかかかかかかかか
 るれどおおの由記きききききききききき
 くるりりりりりりりりりりりりりりりりり
 さいりりりりりりりりりりりりりりりりり
 いりりりりりりりりりりりりりりりりり
 く上座して押しおるりりりりりりりりりり
 あさ月かきききききききききききききき
 らいりりりりりりりりりりりりりりりりり
 つと屏風とやんやんやんやんやんやんやん
 町てひばお性衣とやんやんやんやんやんやん
 ておまよしとあぬはらあぬはらあぬはら
 さんとうりりりりりりりりりりりりりりり

上



菊川 藤太 高方 ちまを

中中

女位

ちのぶ ちのぶ

女

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

中上上



山村 清之助 万葉集

中中

女位

ちのぶ ちのぶ

女

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

中上



上村 藤三郎 藤三郎

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ


ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ


ちのぶ ちのぶ ちのぶ ちのぶ

中ノ中 正 大和山くわの 百五

^三 蘇世に南の女のかるいん

中ノ中  林ノ小源キ 林ノ

^世 蘇世のいん ^世 蘇世のいん

中ノ中  川にわたり 林ノ

^世 蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

蘇世のいん ^世 蘇世のいん

流れゆく川に舟をたてて
風もあやまらずに
舟もあやまらずに
舟もあやまらずに

上上吉 ⑤ 沢村長十郎

⑥ 中右と縁者とやうせふ家なる舟

ゆきゆく芝居とてしむし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

上上 ⑦ 三浦義太郎

⑧ 三浦をたてし舟をたてし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

上上 ⑨ 文徳義平也

⑩ 文徳義平也の舟をたてし舟をたてし

三浦の舟をたてし舟をたてし舟をたてし

上上吉 ⑪ 百人一首

⑫ 舟をたてし舟をたてし舟をたてし

上上吉 ⑬ 為川小三郎

⑭ 舟をたてし舟をたてし舟をたてし

上上吉 ⑮ 山下龜之丞

⑯ 舟をたてし舟をたてし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

上上吉 ⑰ 松本重巻

⑱ 舟をたてし舟をたてし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

上上 ⑲ 首末半世

⑳ 舟をたてし舟をたてし舟をたてし

舟をたてし舟をたてし舟をたてし

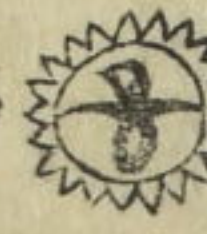
川原七五... 元振... 今... 女... 男... 上上



上上 女田小吉郎

中上正 尾上神... 中中 古代位... 中上正 本... 中中 古代位... 中上正 本... 中中 古代位... 中上正 本...

尾上神



尾上神

中中 古代位

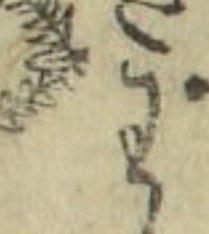
中上正 本... 中中 古代位... 中上正 本... 中中 古代位...



中上正 本

中中 古代位

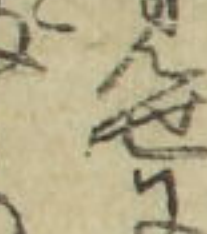
中上正 本... 中中 古代位... 中上正 本... 中中 古代位...



中上正 本

中中 古代位

中上正 本... 中中 古代位... 中上正 本... 中中 古代位...



中上正 本

中中 古代位

中上正 本... 中中 古代位... 中上正 本... 中中 古代位...

一 中 市村源次郎

一 中 市村の八幡宮祭

一 中 花川祭

一 中 花垣松祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

子役祭 掛山三郎 掛山

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

一 中 市村源次郎祭

正徳五年
役者懐妊帯
江戸の巻

皆加へおひしりすます

義経流瀝の筋又巻付け

并ニ細縮紙の赤紙の先陣の旗掛

風流流平家 全五巻

右の中西月二冊出

風流流平家の筋又巻付け

義経流瀝 全五巻

軍方の名物色及の將一巻の面影

止那又追下の名物

右又巻は毛始十巻の筋又巻付け

俊者懐世帯

巻入日記

義経の巻付け

枕屏風

全巻

あつて舟

鎧の巻

一巻の巻

▲新とぬつて出る

たまの挽

名ありまへ

わすまのまげり

ねごうの荒り所

まごの魚のぶんの

▲未社たははのうまご

丸の焼

えびご 分別又実のまの

糖心(ま)

あーの紙子の

▲中るがわしむげの

火おね

あべすこ

ちりくくまひける

5 (ま)

江戸三芝居取扱役者目録

さうの町 中村勘三郎座

あき町 市村竹之丞座

こびと町 森田勘次座

評判さうの(あ)二取の位付

▲立役之部 十三丁目(四)十と

大ざ 上上吉 市川團十郎 中村

天孫 上上 村山平兵衛 森田

上上 中村勘九郎 日

上上 松本小四郎 市村

上上 番沢半三郎 中村

上上 市川團十郎 市村

上上 岩とつんざく

上上 市川團十郎 市村

上上 岩とつんざく

上上書 大谷 廣次 表田産

上 桐の呂木

上上 山本 竹十郎 中村産

上 三ノ下 志の瀬わう

上上 中村 吉三郎 表田産

上 三ノ下 一ノ瀬 三ノ瀬

上上 三味屋 助十郎 市村産

中上 三ノ下 卯人 あり

上上 上村 吉三郎 表田産

中上 三ノ下 あり木のど

上 中村 勘六 日産

上 文勝 十四郎 市村産

中上 三ノ下 下戸の酒

上 嶋田 守平次 中村産

中上 三ノ下 山つむ

上 柴崎 庄次郎 市村産

中上 三ノ下 同ドつむ

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

中上 三ノ下 七十又日

▲秋假之緒 四十八丁六丁と

みくー
上上 中嶋三郎 中村彦
上上 中嶋三郎 中村彦

いくり
上上 大西太右衛門 森田彦
上上 大西太右衛門 森田彦

みぐミ
上上 大川八郎左衛門 中村彦
上上 大川八郎左衛門 中村彦

引わい
上 中嶋三保右衛門 日彦
中上 中嶋三保右衛門 日彦

引わい
上 松中四郎左衛門 森田彦
中上 松中四郎左衛門 森田彦

無入階
中上 坂田半又郎 中村彦
上上 坂田半又郎 中村彦

いりり
▲乃介方之部 四十六丁八丁と
上上 仙石亮助 森田彦
上上 仙石亮助 森田彦

あぢり
上上 中村傳八 中村彦
上上 中村傳八 中村彦

あぢり
上上 中村又四郎 森田彦
上上 中村又四郎 森田彦

あぢり
上上 金沢 平六 中村彦
上上 金沢 平六 中村彦

あぢり
上上 南心孫右郎 日彦
上上 南心孫右郎 日彦

あぢり
上 東 友彦 日彦
上 東 友彦 日彦

あぢり
中上 西田三郎 森田彦
中上 西田三郎 森田彦

あぢり
中上 竹田源助 中村彦
中上 竹田源助 中村彦

あぢり
▲親仁方之部 四十八丁目
上上 大徳守右衛門 中村彦
上上 大徳守右衛門 中村彦

あぢり
▲荒車方之部 四十九丁八丁と
上上 神尾政之助 中村彦
上上 神尾政之助 中村彦

あぢり
上上 山村惣右衛門 森田彦
上上 山村惣右衛門 森田彦

あぢり
上上 村上善左衛門 日彦
上上 村上善左衛門 日彦

あぢり
上上 村上善左衛門 日彦
上上 村上善左衛門 日彦

あぢり
上上 村上善左衛門 日彦
上上 村上善左衛門 日彦

あぢり
上上 村上善左衛門 日彦
上上 村上善左衛門 日彦

あぢり
上上 村上善左衛門 日彦
上上 村上善左衛門 日彦

あぢり
上上 村上善左衛門 日彦
上上 村上善左衛門 日彦

一室 岩井橋八郎市一室 中村金次郎市

▲あな女飛之部 平四下五下三三

上上吉 浅尾十次郎 市村彦

上上吉 若田亮之丞 藤田彦

上 若村守吉 中村彦

上 山下 かる色 市村彦

上上 中村竹三郎 中村彦

上上 玉沢 林弥 藤田彦

上上 小倉七三郎 日彦

上上 若島 大士吉 市村彦

上上 上村小八郎 藤田彦

上上 若木菊三郎 市村彦

上 袖渡七三郎 日彦

上 若島 若島 藤田彦

中上上 若島 若島 中村彦

中上上 中村源之助 日彦

一室 上村市弥 中一室 坂田萩之丞 中

一室 深川小吉 中一室 坂田京之助 中

一室 袖渡千之助 市一室 桐山守之助 市

一室 竹中源次郎 市一室 大和川 市

一室 尾上右近 市一室 三條小治 市

一室 市川 市一室 若井八十郎 市

▲あな女飛之部 平四下五下三三

上上吉 若島 若島 藤田彦

上上吉 若島 若島 藤田彦

上上吉 若島 若島 藤田彦

上上吉 若島 若島 藤田彦

上上吉 若島 若島 藤田彦

上上 中村 峯之助 市村 彦
日々い 上 とうづい 志のびの畠
喜やの

上 中村 小治 藤 中村 彦
日々い 中上 とうづい 白玉つとぎ
見ごと

上 豊山 宇源 吉 市 登
日々い 中 とうづい ちやぢぢぢ

中 市 川 小 吉 丈 中 村 彦
日 中 上 三 條 勘 左 衛 門 日 彦

一 室 中 村 幸 之 助 中 室 玉 沢 林 之 助 中
一 室 中 村 小 山 三 市 一 室 大 和 川 菊 江 市

一 室 市 川 同 之 女 丞 一 室 市 川 源 吉 良 彦
藝 子 卷 軸 中 村 七 三 郎

彦 市 村 善 三 郎
右 丈 元 森 田 勘 彦

惣 卷 軸 市 村 竹 之 丞
竹十郎 上上 勝山 又 又 郎 以 評 行 十 良 沢 五
平九郎 船 上 雷 小 川 善 五 良 日 改 中 村 彦 出 丸

山家の橋の報に海らるるさるさる
味河分にはたて敷河分には散罪も欲

もみぬのえはほほそれなはひくさ
山家の令親持前ららるるさるさる

かか。若ききさる妻もさるね面
あつてまじもまじまじと代々本居

にわらわのわらわし一門九十三人の限
とよむるさるさるさるさるさるさる

と下知あつてわらわさるさるさるさる
のまじと下る其の基の基連神相の接海

くは能あつてまじと下る其の基の基連神相の接海
して二方さるさるさるさるさるさる

あつてまじと下る其の基の基連神相の接海
あつてまじと下る其の基の基連神相の接海

あつてまじと下る其の基の基連神相の接海
あつてまじと下る其の基の基連神相の接海

あつてまじと下る其の基の基連神相の接海
あつてまじと下る其の基の基連神相の接海



男の金
借れど

か

か

か
か

か

風の雲がわかちあひあつたのねらふ地
に徘徊のむねのめづるひこののねらひ
といはれてあつた我々が主人はなす人
お前の正統なとあるゆゑの出入の密はしを
ゆつたれば友人と人として立てたるは依
存せられぬとぞいふ人又腹を切せんは
曲者之怪せよと踏付けられ稽さるるは男
ゆゑか時まるつゝいふ必之盗たるらんは
あつて座をさつられぬとぞいふらんそなた
松のらんあまのわらじ藤の老ゆゑの葉
ゆもなせし石洞法の後志平は免とまじ
まじる藤とねらふ藤人のあつてから松
中いのはくまらるる無賊とぞいふぞ
雨の老あなととあつてはるる報をあて
ぬとぞいふとぞいふとぞいふとぞいふとぞ

し路次の奥より下流のちゆうやうま
葉を揚枝とつゝいふとぞいふとぞいふ
ていとあつてあつた藤の老ゆゑの葉
足知れるあつた藤人のあつてから松
なるる藤とねらふ藤人のあつてから松
は美徳の同人持をいふとぞいふとぞいふ
られぬのあまのわらじ藤の老ゆゑの葉
あつてはるる藤とねらふ藤人のあつてから松
さてお前の密はしをいふとぞいふとぞいふ
るたのむとぞいふとぞいふとぞいふとぞ
おそびていひとぞいふとぞいふとぞいふ
つらりとぞいふとぞいふとぞいふとぞ
のびとぞいふとぞいふとぞいふとぞ
きしをのびとぞいふとぞいふとぞいふ
をいふとぞいふとぞいふとぞいふとぞ

▲立役之部

大ぎて 上吉回 市川團十郎

上上 (勇) 夏合 (馬) 年中村有

毛り、わら、それ、ね、高、下、の

中村七三の、う、り、た、ふ、お、ま、り、の、お、上

より、お、お、い、ご、功、果、と、と、と、中、村

お、高、う、せ、ち、ち、く、い、き、指、も、獲、株、の

細、を、後、よ、株、の、の、や、ま、よ、う、感、を

は、も、の、お、程、う、び、ま、今、お、い、中、に

び、市、川、を、程、は、お、も、て、い、い、い、株、を

肝、に、お、ま、ま、開帳のい、い、い、を、ま、ま、

係、を、ま、ま、い、い、い、い、市、川、を、

り、お、親、團、十、郎、一、刀、こ、れ、の、中、に、

器、利、生、の、お、ま、ま、は、一、流、の、ま、り、

お、れ、お、り、市、川、の、お、立、役、切、り、

の、お、板、と、お、お、い、お、ま、ま、を、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

存せらるる所は、おたがひのまゝに、

（附） 御前へ、おたがひのまゝに、

ふせぐは、おたがひのまゝに、

高き、おたがひのまゝに、

まゝとして、おたがひのまゝに、

いふ、おたがひのまゝに、

一、おたがひのまゝに、

西、おたがひのまゝに、

なる、おたがひのまゝに、

原、おたがひのまゝに、

どの、おたがひのまゝに、

を、おたがひのまゝに、

く、おたがひのまゝに、

ま、おたがひのまゝに、

あ、おたがひのまゝに、

の、おたがひのまゝに、

足、おたがひのまゝに、

一、おたがひのまゝに、

を、おたがひのまゝに、

候、おたがひのまゝに、

る、おたがひのまゝに、

ま、おたがひのまゝに、

と、おたがひのまゝに、

その、おたがひのまゝに、

て、おたがひのまゝに、

る、おたがひのまゝに、

の、おたがひのまゝに、

川、おたがひのまゝに、

と、おたがひのまゝに、

お、おたがひのまゝに、

吉、おたがひのまゝに、

おひい 上上吉  中務勅命

上上吉 (方俊妙) (オノミヤノ)

オノミヤノ 御こと勅命なまじし十数日にお

させしれども中務友のかられまじしと云ん

まき入のたまひまじしは苗代切者おひ

入のまき上りたけはき藤原かここ懐刺の

中いねる 竹下 上は梵天様あのかた下

はる藤原の追ひまじし入はははひい入ま

きまわいおれあまもあひんのもきなりと

ぬ市川ぬい糸とねるくまき藤原まひい

まねをた友のまきもまき藤原まひい

藤原の由園がまひいむでござる苗代を

おはる二の改まはれ真作はぬ中務目

まおれあまもまきなりにては様とるい

付まきる入りてよりまき藤原あり

おまき藤原ありておれまきる藤

原のまき次が女房はをほまきるのたけ

おれまきこれ奥州信と藤原は胃

まの藤原はまきとよまき藤原は

とかられは藤原を私を藤原と云

りまきこれいふまきとれおまきるごまき

りまき藤原はまきる藤原は

よまきの藤原はまき入あはははまき

いひい付まきとまきしまき藤原

おまきおまき七の藤原はまきる

は藤原の中あまかまきまきる

あまかまきと藤原はあまかとまきる

はまき藤原はまきる藤原は

けは藤原のまきる藤原は

多満太平記 市村屋 四番續

わづらう

市川團扇

大でけ

さぶら

中橋三郎



山下の

山

早川傳次郎

おまの

おまの

おまの



おまの

おまの

おまの

おまの



大でけ

早川傳次郎

おまの

おまの

おまの

おまの

おまの

おまの



早川傳次郎

おまの

おまの

おまの

おまの



おまの

早川傳次郎

何れに於て形やたる親方其の要なる書
平吉の五三よりこれ等三平八よりして只大
よの款に因て其のいじりて其のいじり
親と子と二役大あり。兼て去年款を
先の年とて備極反親を二役せられ。其
の又極をいじりて其のいじりて其のいじり
らま中治の極をいじりて其のいじりて其のいじり
親を女給虎いじりて其のいじりて其のいじり
只身まがけいじりて其のいじりて其のいじり
より志やいじりて其のいじりて其のいじり
と極をいじりて其のいじりて其のいじり
ふはけいじりて其のいじりて其のいじり
この極をいじりて其のいじりて其のいじり
の二年と極をいじりて其のいじりて其のいじり
は後も上上げられ其のいじりて其のいじり

▲ 款役之部

上上 中治のいじり

上 極のいじり 當年中指え

世にい せむもい せむもい せむもい

役目の中仕合。尚款を大極極より事

と極のいじりて其のいじりて其のいじり

大をいじりて其のいじりて其のいじり

はしけんといじりて其のいじりて其のいじり

改めいじりて其のいじりて其のいじり

の無人方招き極をいじりて其のいじり


いじり 上上 大極極

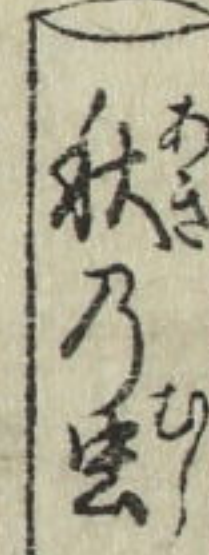
上 極のいじり 當年中指え


本考の 大い日 人地をいじりて其のいじり

あていじりて其のいじりて其のいじり

といふいじりて其のいじりて其のいじり

めづり候とていじ母神宮を及そ候この
中なるわがを料でまこの地をのち
うねるつとてちり移しつてこの神宮
改めと教をせし合の目上おしは上の
馬馬 上上書  ちり村又田部

上  秋乃雲 ちりさ書田部

ちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

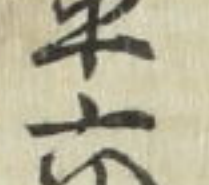
あつとちり村又田部  ちり村又田部

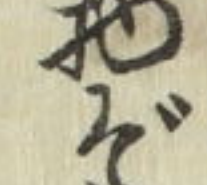
あつとちり村又田部  ちり村又田部

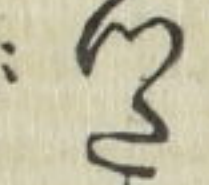
あつとちり村又田部  ちり村又田部

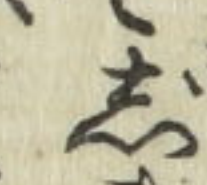
あつとちり村又田部  ちり村又田部

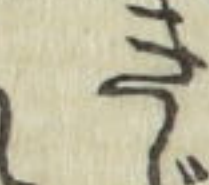
あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部


あつとちり村又田部  ちり村又田部


あつとちり村又田部  ちり村又田部

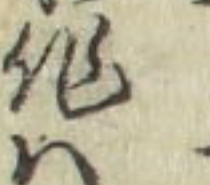
あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

あつとちり村又田部  ちり村又田部

世々 是の如く此の如く...
せんせいで本の...
おのげらりお体ご同家

中上 西金共二席 森田彦

中上 竹田源助 中村彦

おのげらりお体ご同家
おのげらりお体ご同家

おのげらりお体ご同家
おのげらりお体ご同家
おのげらりお体ご同家

▲親仁方ご部

上上吉 同 大徳守 志村

上上 杉本 柳

おのげらりお体ご同家
おのげらりお体ご同家
おのげらりお体ご同家

▲親東方ご部

上上吉 神尾 政之助

上上 杉本 柳

おのげらりお体ご同家
おのげらりお体ご同家
おのげらりお体ご同家

此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる

上上



山村惣次郎

秋乃睦 西の森田

上

秋乃睦


西の森田


此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる
此の所へ移すれ大由り申渡さる

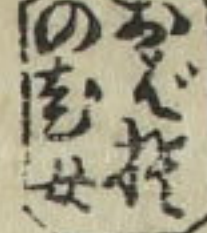
志がし申入り

神判の事おぼしむの候におかれは、おぼし
まへしと申す候へども、申す候へども、申す候へども、
らざりしと申す候へども、申す候へども、申す候へども、
くは、申す候へども、申す候へども、申す候へども、

▲おの女形一節

上上吉  浅尾十次郎

上上吉  浅尾十次郎

 浅尾十次郎

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、

申す候へども、申す候へども、申す候へども、


申す候へども、申す候へども、申す候へども、


あはれなるにけりしはかたじけなくはなれり
しに類あらずしるべき事おぼやかり女中娘
かかるとはしるべき事おぼやかり女中娘
は南無三尊の御名をうたへてはなれりしは
こころをなげきしるべき事おぼやかり女
中娘の御名をうたへてはなれりしは
あはれなるにけりしはかたじけなくはなれり
しに類あらずしるべき事おぼやかり女中娘
かかるとはしるべき事おぼやかり女中娘
は南無三尊の御名をうたへてはなれりしは
こころをなげきしるべき事おぼやかり女
中娘の御名をうたへてはなれりしは

あはれなるにけりしはかたじけなくはなれり
しに類あらずしるべき事おぼやかり女中娘
かかるとはしるべき事おぼやかり女中娘
は南無三尊の御名をうたへてはなれりしは
こころをなげきしるべき事おぼやかり女
中娘の御名をうたへてはなれりしは

よきまぬの神宮九十五の若者相なと
とのうみ養ひを相してよらぞく

うらが 上上  玉沢林跡

うらめ 中上  柴は茶楓 當年春田産

 おん持
かむ 中一三念の尾が流りて今もみ

らけ本よりそまふつぐはほそま

分り身流の世の天今流にやそま

身ありぬよひまめあり茶葉の煙

とかりまてこころ  ころの今ひ林

流れと種ちやうしてこころをまよ


いと種も中葉流の教を茶葉流に任


妹娘あまごとめんてはまをそま

にわてういせりありはまらまで花

こゑをんせりたのや中流をわて

中上  小倉七三郎

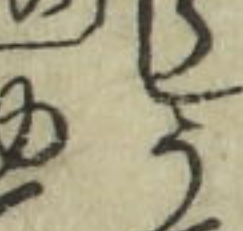
うらめ 中上  柴は茶楓 當年春田産

 おん持
かむ 中一三念の尾が流りて今もみ

らけ本よりそまふつぐはほそま

分り身流の世の天今流にやそま

身ありぬよひまめあり茶葉の煙

とかりまてこころ  ころの今ひ林

流れと種ちやうしてこころをまよ

いと種も中葉流の教を茶葉流に任

妹娘あまごとめんてはまをそま

にわてういせりありはまらまで花

こゑをんせりたのや中流をわて


中上  小倉七三郎



うらめ 中上  柴は茶楓 當年春田産



 おん持
かむ 中一三念の尾が流りて今もみ



とやうに物系然と都々まよるゝかえは
いふやまよるやまよるの海傍のやまよるの
びのたわわのやまよるのやまよるの
二役のお勤まはけに中月よやまよる上
方より一辰計のやまよるのやまよるの

上上  後出大吉

中上  中上


とやうに物系然と都々まよるゝかえは
いふやまよるやまよるの海傍のやまよるの
びのたわわのやまよるのやまよるの
二役のお勤まはけに中月よやまよる上
方より一辰計のやまよるのやまよるの
上上  後出大吉
中上  中上
とやうに物系然と都々まよるゝかえは
いふやまよるやまよるの海傍のやまよるの
びのたわわのやまよるのやまよるの
二役のお勤まはけに中月よやまよる上
方より一辰計のやまよるのやまよるの

とやうに物系然と都々まよるゝかえは
いふやまよるやまよるの海傍のやまよるの
びのたわわのやまよるのやまよるの
二役のお勤まはけに中月よやまよる上
方より一辰計のやまよるのやまよるの
上上  上村小八郎
中上  中上

とやうに物系然と都々まよるゝかえは
いふやまよるやまよるの海傍のやまよるの
びのたわわのやまよるのやまよるの
二役のお勤まはけに中月よやまよる上
方より一辰計のやまよるのやまよるの
上上  上村小八郎
中上  中上
とやうに物系然と都々まよるゝかえは
いふやまよるやまよるの海傍のやまよるの
びのたわわのやまよるのやまよるの
二役のお勤まはけに中月よやまよる上
方より一辰計のやまよるのやまよるの

三車したゆら舟のほひのひのひの
のまはひうたうひのひのひのひのひの

上上  今本菊三郎

中上上  今戸橋 ちつとち村を

おん松
ち女

ちつとち村を

ちつとち村を


ちつとち村を


ちつとち村を


ちつとち村を

ちつとち村を

ちつとち村を

上  神楽七三郎 市村を

上  柴田た源吉 日産

上  柴田た源吉 毒田を

ちつとち村を

ちつとち村を


ちつとち村を

ちつとち村を

ちつとち村を

ちつとち村を

中上上  生野教三郎 中村を

中上上  中村源吉 日産

三股川  ちつとち村を

ちつとち村を

ちつとち村を

ちつとち村を

ちつとち村を

ちつとち村を

中上上 回 市川山守 中村彦

中上上 三條勘十郎 日産

みどり竹の子と出まゝとどま

いよる徳とらふるおれをせよ

かしの尻尾まがくのせりふ

あんならちちのゆれおのほ

一 中村幸之助 中村 親者

一 玉沢持之助 日産

一 中村小山三市村

一 大和川菊江 日産

一 市川山守 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

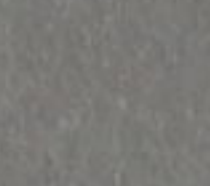
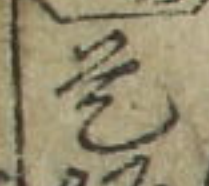
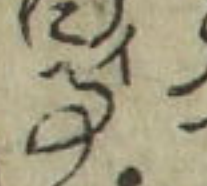
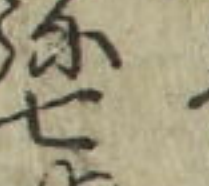
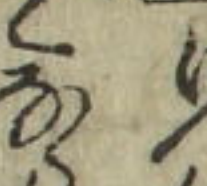
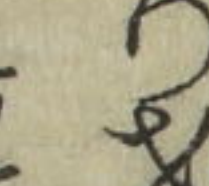
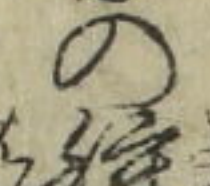
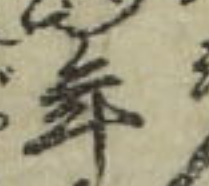
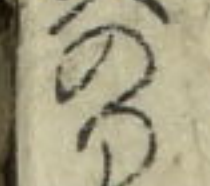
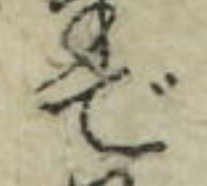
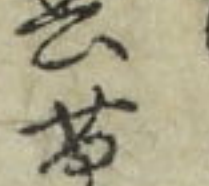
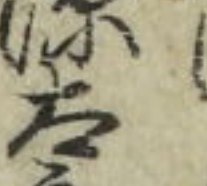
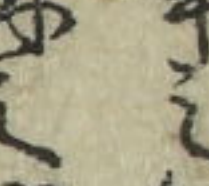
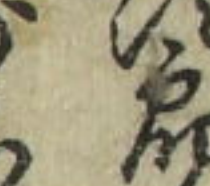
一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産

一 市川源右衛門 日産



巻九 女流 虎三郎 白鳥 八木の村 吳
の仮芝居 根のくまのものがたりの定紋花

熱巻 柳 市村 竹之丞 症本

本巻の 大五郎 柳 市村 竹之丞 症本の

市村 竹之丞 柳 市村 竹之丞 症本の

おまの 出まする 柳 市村 竹之丞 症本の

南 飛 巻 者 海 太 平 柳 市村 竹之丞 症本の

羽 織 太 小 高 笠 柳 市村 竹之丞 症本の

て の 柳 太 巻 の 柳 市村 竹之丞 症本の

三 の の や ぐ 三 女 の ま ん へ 百 歳 の 柳 市村 竹之丞 症本の

本 巻 の 柳 市村 竹之丞 症本の

柳 市村 竹之丞 症本の

正 徳 久 年 未 正 月 吉 日

八 巻 町 通 世 二 下 町 八 巻 町 板

柳市村竹之丞

